

## 平成30年度第3回江別市スポーツ推進審議会開催結果

### 1. 開催日時

平成31年2月18日（月）午後3時00分～午後3時30分  
江別市民体育館 会議室

### 2. 出席者

#### ・スポーツ推進審議会委員：8名

金内晴夫会長、花井篤子副会長、古川孝行委員、小林照美委員、福田幸一委員、  
北本貴史委員、山下和人委員、袴田丈晴委員

#### ・教育委員会事務局：7名

萬教育部長、伊藤教育部次長、三浦スポーツ課長、遠藤スポーツ振興担当主幹  
板東スポーツ係長、結城主事

### 3. 開催結果

#### (1) 開 会

委員の過半数の出席を確認し、スポーツ課長が開会を宣言。

#### (2) 教育部長あいさつ

萬教育部長からあいさつ

#### (3) 会長あいさつ

金内会長からあいさつ

#### (4) 報告事項

報告事項（1）第6期江別市スポーツ推進計画の策定について

- ・スポーツ振興担当主幹から、資料に基づき報告した。

#### ○スポーツ振興担当主幹：

報告事項（1）の第6期江別市スポーツ推進計画の策定について報告する。

本計画の策定については、昨年2月23日に教育委員会からスポーツ推進審議会に諮問されてから、当審議会において慎重にご審議いただき、11月14日に開催した前回審議会において計画の策定についての答申内容がまとまったことから、12月17日に当審議会を代表して、金内会長と花井副会長から教育委員会に答申書及び計画策定にかかる意見書のご提出をいただいたものである。

当審議会からの答申を受け、教育委員会で協議・審議を行い、本年1月29日に開催された定例教育委員会において、計画の策定について、教育委員会の承認を得た。

このことについては、2月14日に開催された総務文教常任委員会にも報告しているところである。

お手元に別冊として配布した計画については、今後、製本までの間、文字のスタイルやレイアウトなどを含めた軽微な修正については事務局で見直しを行い、完成した計画書については、関係団体に配布するほか、公共施設等への配置、市のホームページでの公開を予定している。

計画の策定に当たり、委員の皆様にご多大なるご尽力をいただいたことに、改めてお礼を申し上げ、報告とさせていただきます。

(質疑等 → なし)

報告事項(2)平成30年度スポーツ賞・スポーツ奨励賞・教育委員会賞について  
・スポーツ係長から、資料に基づき報告した。

○スポーツ係長：

報告事項(2)平成30年度江別市青少年スポーツ賞、スポーツ奨励賞、及び教育委員会表彰について報告する。

これらの賞は、スポーツ大会において優秀な成績を収めた青少年を表彰するもの。選考基準は、スポーツ賞は全国大会で3位以内・通算2年以上の入賞・全国記録の更新、スポーツ奨励賞は全道規模の大会で優勝・全道記録の更新、教育委員会賞は、全道規模の大会等で2位又は3位という基準となっている。

贈呈式は、今週末の2月23日(土)にえぼあホールで開催し、市長並びに教育長から贈呈を行う。来賓として当審議会の金内会長にもご臨席いただく予定である。

それでは、資料2の1ページをお開き願いたい。青少年スポーツ賞の受賞者は、7個人、2団体である。

個人では、とわの森三愛高等学校3年生の藤田大輝さんがソフトテニスで国民体育大会に北海道選抜チームの一員として出場し第2位、とわの森三愛高等学校3年生の亀田隆介さんが同じくソフトテニスの国体で第2位、とわの森三愛高等学校3年生の佐藤竜斗さんが同じくソフトテニスの国体で第2位、とわの森三愛高等学校3年生の守屋優人さんが同じくソフトテニスの国体で第2位、立命館慶祥高等学校1年生の石堂陽奈さんが陸上の国民体育大会少年女子Bの100mで第2位、立命館慶祥高等学校1年生の松田奈夏さんが陸上の国体少年女子Bの走幅跳で第3位、江別第一中学校3年生の山口桜花さんが少林寺拳法の全国大会論文の部で第2位の成績を、それぞれ収められた。

次に団体では、立命館慶祥高等学校女子400mリレーチームが陸上競技の全国大会で優勝、SONICがドッジボールの全国大会で第3位の成績を、それぞれ収められた。

資料 2 ページから 4 ページにかけては青少年スポーツ奨励賞の受賞者であるが、21 個人、18 団体、合計 39 件の受賞となった。受賞者や成績などは記載のとおり。

次に、資料 5 ページから 6 ページの教育委員会賞(スポーツ部門)の受賞者であるが、13 個人、13 団体、合計 26 件の受賞となった。受賞者や成績などは記載のとおり。

7 ページには、年度別受賞者数の推移をお示ししている。本年度、各賞を合わせた受賞数は、74 件となった。報告は以上である。

(質疑等)

○花井副会長：

少林寺拳法全国大会の論文の部というのはどういうものか。

○事務局(スポーツ係長)：

当該大会において今年度から創設された部門である。参加者は少林寺拳法を題材とした論文を各都道府県協会に提出し、各協会はその中から 1 名を選出し全国大会に推薦、審議を経て順位を決定するもの。第 1 位の受賞者は当該大会の開会式で論述する場を与えられる。

教育委員会としても初めての事例であるが、少林寺拳法の役割や意義を論じることで競技の普及・振興を目的としていると認められることから、スポーツ賞の対象とした。

○金内会長：

立命館慶祥高校の女子 400m リレーチームが、団体としてスポーツ賞を受賞しているが、一昨年はリレー競技は個人で 4 人を受賞していたと思うが、取扱いが変わったのか。

○事務局(スポーツ係長)：

昨年度から取扱いを変えており、陸上の関係者にも確認したところ、リレー競技は団体の要素が強いということから、個人扱いとしていた受賞の枠を見直して、団体として取扱うということに変更している。昨年度は、リレーチームの受賞者がいなかった。

○金内会長：

そうすると、スポーツ賞受賞のソフトテニス(立命館慶祥 4 名)は、個人での受賞ではなく、団体での受賞ではないのか。

○事務局(スポーツ係長)：

ソフトテニスの受賞者 4 名は、国体において北海道の選抜チームとして選ばれ、優秀な成績を収めたものであることから、団体ではなく、個人での受賞となる。

### 報告事項（３）平成３１年度スポーツ関係予算について

- ・スポーツ係長から、資料に基づき報告した。

#### ○スポーツ係長：

報告事項（３）平成３１年度スポーツ関係予算について報告する。資料３をご覧ください。平成３１年度のスポーツ関係予算について、主だったところの予算について掲載している。前年度と変更のある事業や予算の増減が大きい事業について、ご説明させていただきます。

「体育施設整備更新事業」では、江別市体育協会からの要望を受け、大麻体育館に設置している柔道畳の一部更新経費として、前年度比で１３０万円が増額となっている。

「市民体育館改修整備事業」では、建築基準法の要件を満たしていないことが判明した市民体育館のコンクリートブロック塀について、法の要件を満たすよう改修を行う。

「屋内体育施設管理運営事業」については、平成３０年度から第４期目となった、市内４体育館に関する指定管理料である。指定管理者は一般財団法人江別市スポーツ振興財団である。指定管理業務計画に基づき、また、１０月からの消費税率変更に伴い、前年度から約３９０万円の増となった。

また、「あけぼのパークゴルフ場管理運営事業」、及び「森林キャンプ場管理運営事業」も指定管理料であり、同じく平成３０年度から第４期目となった。これらの指定管理者は、いずれもエコ・グリーン事業協同組合である。こちらも消費税率変更により、前年度と比べ増額となっている。

「スポーツ少年団補助金」、「体育協会補助金」については、会員数や事業内容によって毎年変動するが、平成３１年度は少年団の補助金額は微減、体育協会の補助金額は全道大会の回数増により、増額となっている。

「スポーツ大会等振興補助事業」については、一般財団法人江別市スポーツ振興財団が実施する、原始林クロスカントリー大会などのスポーツ大会を開催する事業、トレーニングに関する相談や指導を行う事業、スポーツ指導者を養成する事業に対する補助である。平成３０年度に実施した単年度のイベント開催が、平成３１年度は該当無くなるため、若干の減額となっている。

「ラグビーワールドカップ 公認チームキャンプ地受入事業」は、今年開催されるラグビーワールドカップ２０１９日本大会において、江別市が北海道と共同でオーストラリア代表の公認チームキャンプ地となることから、その受入に要する仮設設備等の設置、チーム歓迎イベント及び地域交流イベントの実施、PR活動等を行うものである。

「スペシャルオリンピックス冬季ナショナルゲーム開催補助金」は、２０２０年２月に江別市で開催される知的障がい者の全国大会であるスペシャルオリンピックス冬季ナショナルゲームに対し、運営経費を補助するものである。

これらの予算については、３月の定例市議会の議決を経て、新年度予算として措置されるものである。

以上、31年度スポーツ関係予算についてご報告したが、これらの事業は、平成26年度からスタートした第6次総合計画「えべつ未来づくりビジョン」や、平成31年度から第6期に入る「江別市スポーツ推進計画」に基づき実施するものである。本審議会におきまして、ご意見やご指摘をいただければ、今後の各種スポーツ振興施策に反映させてまいりたい。報告は以上である。

(質疑等)

○山下委員：

新規事業として、ラグビーワールドカップ公認キャンプ地受入事業の2,800万円の内訳を教えてください。

○事務局（スポーツ振興担当主幹）：

ラグビーワールドカップ公認キャンプ地受入事業の主な内訳だが、2,400万円程度が仮設設備に関する計上となっている。仮設設備とは、チームが来る際のミーティングルームやシャワールーム、その他トレーニングに必要な施設、そういったものを仮設で用意する場合に必要な部分として、経費に計上している。それ以外の部分では、交流事業にかかる経費や職員が出張する際の旅費などを経費に計上している。

○袴田委員：

トレーニングジムについては、江別市の負担になっているのか。また、先ほど仮設設備費用の内訳の説明があったが、仮設設備費用は何が一番お金がかかるのか。

○事務局（スポーツ振興担当主幹）：

トレーニングジムについては、現時点では北海道の負担である。

仮設設備費用は大きなもので言うと、チームルームやマッサージルームが挙げられるが、まだ不確定な部分が多く、実際チームが視察に訪れたときに、改めて決定する部分もあるので、もしかしたらここまで費用はかからないかもしれない。仮にワールドカップの組織委員会が求めている基準通りのものを、すべて求められた場合でも対応できるように予算計上されている。よって、最終的に設置されるものについては、これから調整がなされていく。

○袴田委員：

トレーニングジムなどは、体育館の中に設置する方向で進んでいると聞いていたが、それとは別に、外に仮設物を建てる費用を計上しているということか。

○事務局（スポーツ振興担当主幹）：

トレーニングジムに関しては、今のところ北海道の所管であるので、こちらでは詳しく申し上げられないが、北海道と最終的な調整をこれから進めていくところである。

○金内会長：

とてもお金はかかるが、野幌総合運動公園に依存する部分があると思うので、綿密に打合せをしながらやっていかないといけないと考える。

(5) その他

○事務局（スポーツ係長）：

次回の審議会の開催は、来年度の6月頃を予定している。時期が近くなったら、ご案内させていただく。また、現在の委員の任期が平成31年5月31日までとなっており、来年度は改選期となる。4月下旬に各所属に推薦依頼をお送りさせていただくので、ご協力願いたい。

○議長（金内会長）：

今回は来年の6月頃を予定ということで、それまでの間に委員から質問等があれば事務局に連絡願いたい。また、改選についてもよろしく願いたい。以上をもって第3回江別市スポーツ推進審議会を閉会する。

(6) 閉 会

午後3時30分 終了